

会津地域における秋冬ニラの年内取り栽培

福島県農業試験場 会津支場

平成8・9・10年度春夏作試

験成績概要

分類コード 03-39-18000000

部門名 野菜－ニラ－作型・

栽培型

I 新技術の開発

1 要旨

会津地域における秋冬ニラ栽培は、春期定植の一般的な作型を採用した場合、12月から2月の厳冬期が低日照となるため品質、収量の確保が困難である。そこで生産の安定化を計る目的で、秋に播種した苗を、翌春に定植し、当年内に3回収穫を行う年内取り作型を開発した。

その結果、ワンダーグリーンベルトを用いて8月下旬～9月中旬に播種すれば、定植年時の10月から12月までに3回収穫することができる。その収量は、1年目で308～340kg/a、次年度は9月から12月まで4回収穫が可能で339～376kg/aであった。

2 期待される効果

本作型の導入により、生産の安定が計られ、また、冬期間のハウス管理が省略できる。

3 適用範囲

会津積雪少日照地帯。

4 普及上の留意点

(1) 苗床は排水の良い場所を選び、雑草防除に努める。越冬後は、速やかにトンネル被覆を行う。

(2) 定植時期は、遅くとも4月中旬。刈り捨て時期は、初年目、2年目とも9月上旬までに行う。

(3) 初年度捨て刈り時の生育量の目安は葉重900g/株以上、次年度は葉重1300g/株以上確保できるよう肥培管理を行う。

(4) 捨て刈り後の温度を確保するためにハウス被覆を9月上旬、内カーテン被覆を10月上旬までに行う。被覆時期が遅れると、収量、収穫回数、品質等に影響がでる。

(5) 収穫回数が進むにつれ、低温、低日照となるため、病気などが発生しやすくなるので、換気、土壌水分湿度等のハウス管理に注意する。

(6) 株は2年で更新する。

II 具体的データ

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
慣行作型												
新作型												

表1 越冬率及び捨て刈り時の葉重

No 区名 (播種日)	越冬率 (%)	1年目葉重 (g)	2年目葉重 (g)
1.前年秋播種(1995/8/25)	100.0	956	1327
2.前年秋播種(1995/9/4)	100.0	989	1413
3.前年秋播種(1995/9/13)	97.5	916	1346
4.前年秋播種(1995/9/22)	100.0	978	1374
5.前年秋播種(1995/10/4)	85.0	728	968
6.慣行播種 (1996/4/4)	—	660	1129

表2 収穫日(月/日)

No 区名 (播種日)	1年目	2年目
-------------	-----	-----

	1回目	2回目	3回目	1回目	2回目	3回目	4回目
1.前年秋播種(1995/8/25)	10/8	10/28	11/29	9/22	10/6	10/23	12/5
2.前年秋播種(1995/9/4)	10/8	10/28	11/29	9/22	10/6	10/23	12/5
3.前年秋播種(1995/9/13)	10/11	11/1	12/6	9/22	10/6	10/23	12/5
4.前年秋播種(1995/9/22)	10/11	11/1	12/6	9/22	10/6	10/23	12/5
5.前年秋播種(1995/10/4)	10/15	11/11	—	9/22	10/6	10/23	12/16
6.慣行播種 (1996/4/4)	10/15	11/11	—	9/22	10/6	10/23	12/16

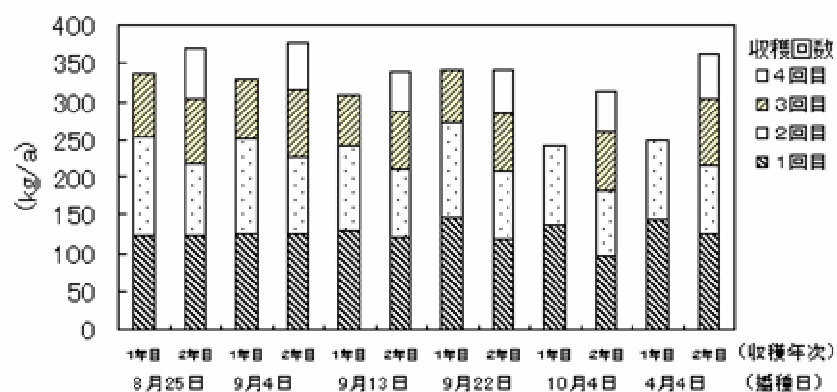


図2 収穫年次別収量

耕種概要

1)栽植様式

一株12本列植え、株間35cm、条間45cm。

2)捨て刈り期

1年目:9月24日 2年目:9月11日

3)施肥量(kg/a)

N-3.1 P2O5-4.3 K2O-2.9 堆肥-1000

Ⅲ その他

1 主な参考文献・資料:平成8・9・10年度福島県農業試験場会津支場春夏作試験概要